

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	2 月	19 日	記入者	小倉つき子	
調査者名	小倉	春日	仲谷	西田	安川	

文化財名	宮山塚古墳					
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1969年(昭和44)3月28日					
所在地	生駒郡平群町椿井1505番地					
所有者 管理者	個人					
員数	1基					
時代区分	古墳時代					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	説明板は新しく文字も明瞭。近くのイラストマップの案内板が、倒れていた。					
公開	個人の所有だが、見学は可能。ただし、石室内は不可。					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ()					
当面の課題	兵庫県南部地震(1995年の阪神淡路大震災)で天井部壁面の一石が落下し、危険なため石室内の見学ができない。石室入り口に柵が設けられ、入ることができないようになっている。					
今後の課題	玄室の壁も天井も石積みで、天井石がなく、ドーム型になっている。そのため地震などでさらに崩落の恐れがある。この種の横穴式古墳が近畿地方へ導入された初期のものという。石室が完全な姿で存在している貴重な史跡であるという。今以上の崩壊を防ぐ対策を考えていただければと思う。					
その他 (由緒など)	本来直径約26m、高さ約7mの円墳だったが、東方山頂稜線にある椿井城への登り口の土塁施設に取り込まれたため、墳頂部が平坦に削られ、墳丘が方形に加工されている。玄室は南が入り口の古式の横穴式石室で、長さ約4m四方のほぼ正方形で、右片袖式。羨道も小さく、特異な石室構造から、5世紀後半から末頃の築造と考えられている、貴重な存在。					
コメント	石室の入り口が小さく、柵が設けられているため懐中電灯で照らさないと中が見えない。玄室の壁だけでなく、天井もドーム型に石積みされている。兵庫県南部地震で石が一つ落下しているので、今後の落石が心配である。早く手を打たなければ崩壊を免れないだろうと思われる。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	2 月	19 日	記入者	小倉つき子
調査者名	小倉	春日	仲谷	西田	安川

文化財名	宮山塚古墳
------	-------

南側の石室入口	南東側
---------	-----



石室内	古墳全体
-----	------



説明板	古墳東に設置されているイラストマップ(倒れている)
-----	---------------------------

